

第15回アジア地域会議 ホームカミングセッション(2015.11.10開催)報告

男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

2015年11月9日から13日に福岡で第15回アジア地域会議が開催され、11月10日のセッション終了後、日本に留学経験がある若手参加者の交流を目的にホームカミングイベント(HC)が開催された。多様な人材の活用を掲げる地盤工学会の「男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会」もこの取り組みに賛同し、開催に協力したので、その報告を行うものである。

事務局を除いても、当初目標の50名を上回り、16カ国出身の53名の参加があり、参加者の反応からも成功裏に終了したと言える。HCセッションは2部構成で、①日本に留学経験のある社会人2名によるトークセッション、②ワールドカフェ方式の討論会(軽食を取りながら)であった。トークセッションではオークランド大学のオレンセ先生、日本工営株式会社のスレン博士から、留学生時代の話や就職活動についての経験談と後輩へのエールが語られた。諸外国と異なり、日本では日本語を少しでも話せることが必要であることや、「空気を読む」に象徴される同調意識が強いことに気をつける必要があることなどが共通していたことは興味深かった。

討論会は、「日本での留学経験をキャリア形成にどう活かすか?」というテーマで小グループに分かれて討議し、まとめ役であるファシリテーターを残し20分で席替えをするワールドカフェ形式で行われた。



写真1 オレンセ先生の講演



写真2 スレン・ソッキアン氏の講演



写真3 ワールドカフェの様子

軽食も交えての和やかな雰囲気での討論会であり、必ずしも討論テーマについて議論されたわけではなかったようで、ファシリテーター役を引き受けていただいた方々には、まとめて苦勞をおかけしたようである。しかしながら、意見交換は活発に行われ、「新たな友人ができた」、「次回も開催して欲しい」という意見も多くあり、大変よい雰囲気で進行していった。

ファシリテーターのメモによると、各テーブルでも基調講演同様に、日本での留学では、たとえ講義が英語であっても、日本語を話せないと難しいことが挙げられていたようである。特に、日本企業への就職が難しいという認識が強く、社会全体のダイバーシティとしての課題もうかがえた。また、東大や京大の学生も多かったのも、母国に帰って研究職に就くためのキャリアとして日本留学をしているという学生も多かったのが印象的である。日本人の就職では海外留学が彼らほどはキャリアとして認められないことと対照的であるとの印象を持った。

参加者にはアンケートを記入して頂き、41名からの解答を得たので、その結果を以降に示す。男性が83%であるが、女性の参加者も17%あり、JGSの構成よりは女性比率が高いと思われる。参加者の多くは20代と30代で目論見通り若手に参加してもらえたようである。ラベルの数値は「人数」、「パーセント」の順に記している。

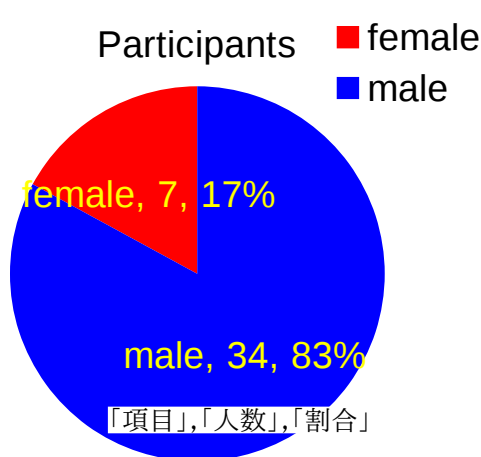


図1 HC参加者の男女比

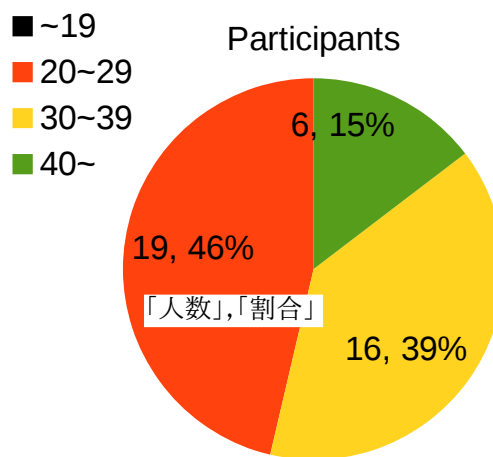


図2 HC参加者の年齢構成

出身国は図3に示すとおり、中国が最も多く12名であるが、16カ国の出身者が参加した。

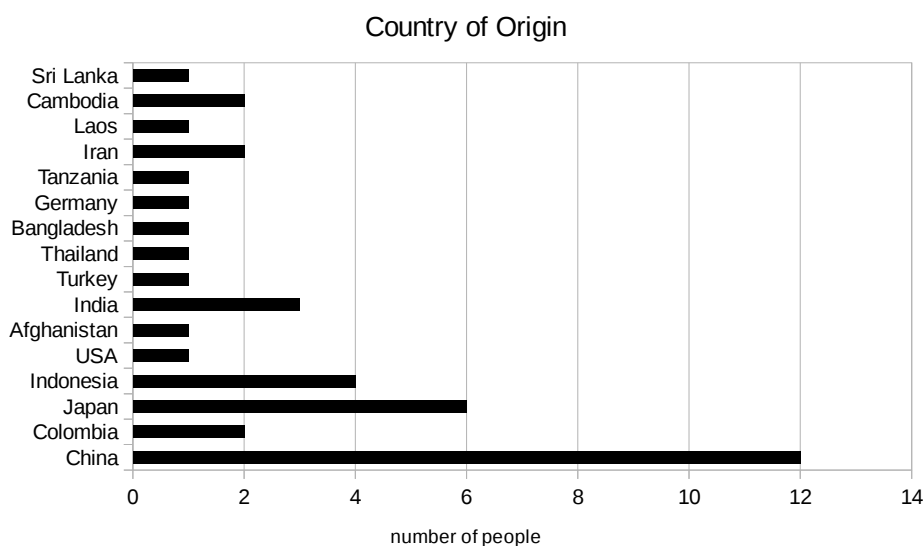


図3 参加者の出身国

留学経験国とその年数について図4,5に示す。日本留学経験者を募ったので、当然日本が多いが、複数の国への留学経験を持つものが4名ほどいた。日本以外ではオーストラリア、イギリスへの留学経験者が多いことが分かる。また留学期間は1～3年が最も多く、中でも1年間というのが一番多かった。

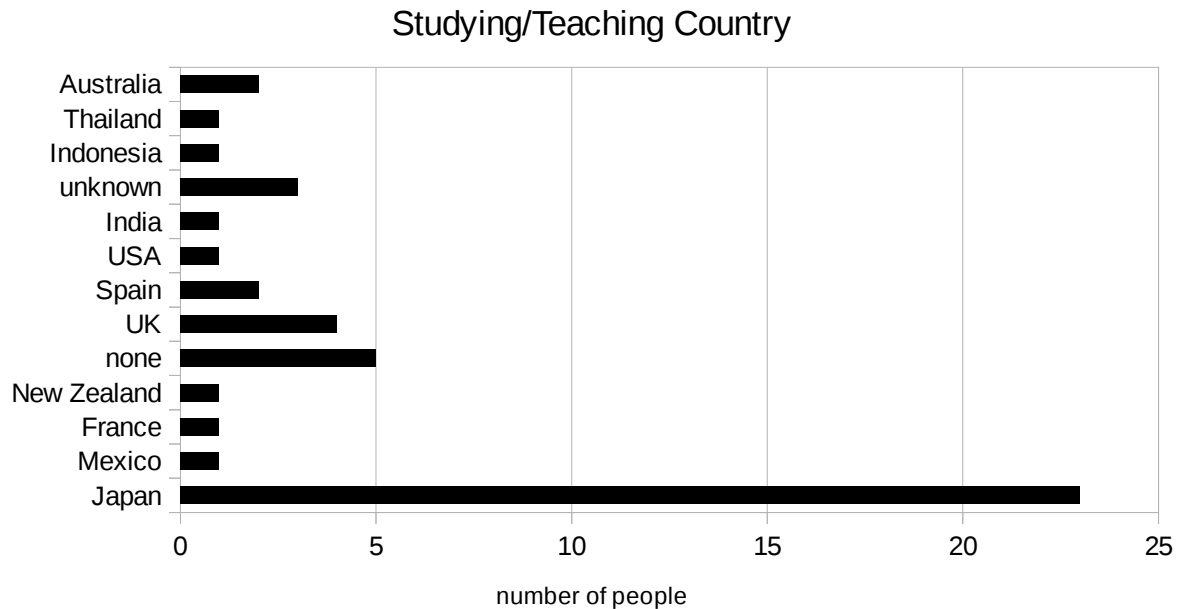


図4 留学経験国(教員として行った国を含む)

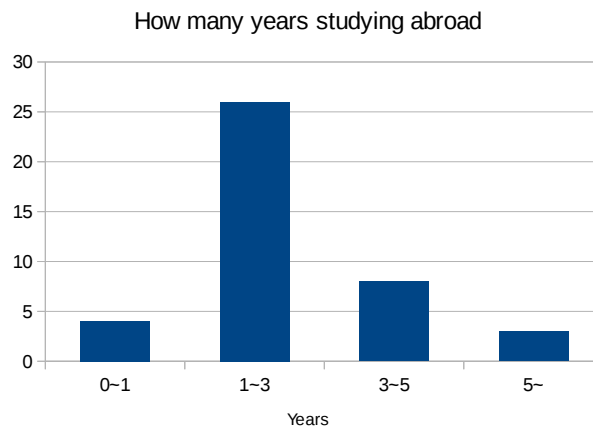


図5 留学年数(「1～3」は1年より大きく3年以下)

最後に今回の企画についてと、どの項目が良かったかと言う点について質問した結果が図6と7である。図7については複数回答であるため、延べ数となっている。図6からは Fair や Poor の解答は皆無で今回の企画が好評であることが確認でき、図7では特にワールドカフェ形式の討論が好評であったことが分かる。当初、ワールドカフェと軽食討論を分ける案があったため、「party」の項目がアンケートに残ってしまっていたが、実際には軽食を取りながらの討論であったので、切り分けは難しい。

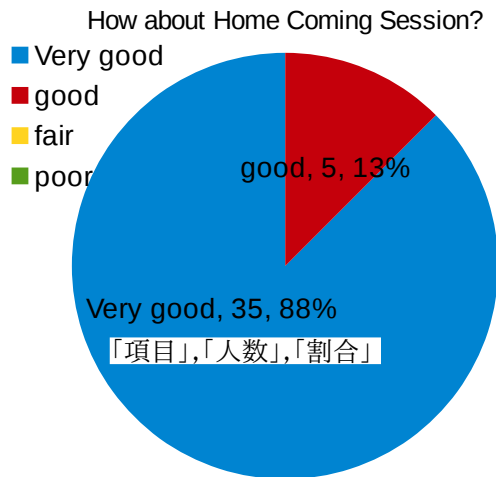


図6 HCについて

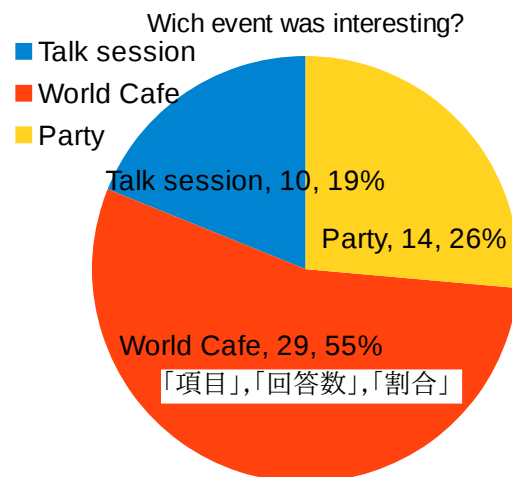


図7 どの部分が良かったか?

自由記述欄では、席を強制的に替える方式への支持が多かった反面、20分では自己紹介で終わってしまって短かったという意見もあり、席替え中に自己紹介をするルールが理解されていなかったことが分かる。また、討論テーマは話をするきっかけにすぎないことを十分にファシリテータに伝えられていなかったために、まとめに苦労された方もいたようであり、今後の運営の反省点としたい。また、アンケートも「現在の居住国」の後ろに傍線がなく、どこに記入して良いか分からないものとなってしまっていたり、「HC イベントで取り上げて欲しいテーマは何か」と聞いたかったのが、単に「希望する次回のテーマは」としてしまったために、アジア会議でのテーマと捉えられたりしており、合わせて反省点としたい。

運営には若干の反省はあるものの、参加者の反応は大変良く、良い交流の場になったようである。今回の出席者が教員となり、教え子を連れて再びアジア地域会議に参加してくれるようになるのではないかと感じられた。アジア地域会議に限らず、日本開催の国際会議等で、積極的にこのようなイベントが開催されることが、日本や JGS への理解につながり、ダイバーシティにつながっていくのではないだろうか。

以上.